



発行者 島根県健康福祉部  
医療政策課医師確保対策室

### 今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO.74 《「就任ごあいさつ」 島根県病院局 病院事業管理者 島根県参与（地域医療支援担当） 山口 修平》
- ◆助産師さんのページ NO.2 《「隠岐でのお産にたずさわって」 隠岐広域連合立隠岐病院 3階西病棟看護科師長（助産師） 高村 浩美》
- ◆地域活動のページ 《「地域医療住民活動の現場から」 NPO法人まちづくり工房うんなん 理事長（がんばれ雲南病院市民の会、雲南市立病院ボランティアの会 事務局長） 矢壁 敏宏》
- ◆専門医制度総合診療専門プログラムの紹介



## 地域医療

### 最前線

No.74

#### 就任ごあいさつ

島根県病院局 病院事業管理者  
島根県参与（地域医療支援担当）

山口 修平



本年の4月から島根県病院局の病院事業管理者に就任し、県立中央病院と県立こころの医療センターの二つの病院の管理運営に携わることとなりました。また事業管理者に加え、島根県参与として地域医療支援にも関わることとなりました。島根医科大学に赴任し約40年間務め、本年3月に退職しましたが、この間人口減少・高齢化の進展、さらに医師養成制度の変化と共に島根県の医療は大きく変貌しました。管理者就任後、

西は津和野から東は安来まで県内の主要な病院を訪問し、地域医療の実情を改めて見聞きさせていただきました。松江、出雲以外の医療圏での医師不足と診療科偏在は深刻で、さらに医師の高齢化も問題となっています。退職された後も、これまで通り病院勤務を継続していただいている医師もたくさんおられます。医師派遣を行う大学病院と中央病院の役割が重要であるのはもちろんですが、県外からの招へいにも力を入れ、さらに地域枠や奨学金による若手医師の定着などを加速させたいと考えます。

中央病院はちょうど20年前に再開発が行われ、現在の出雲市役所のある場所から北方約1kmにある姫原に移転しました。当院は県の基幹病院として、出雲市のみならず全県下の住民に対して、高度で専門的な医療を提供しています。そして県の医療計画に基づいて、救命救急、周産期医療、がん、災害医療、地域医療・へき地医療支援などの政策医療を担っています。ドクターヘリを配備した高度救命救急センターと総合周産期母子医療センターに指定され、地域がん診療連携拠点病院などの役割を果たしています。さらに必要に応じて、地域の病院に医師の診療応援なども行っ

ています。ここらの医療センターも約10年前に新築され、地域に開かれた質の高い精神科医療を提供しています。精神科救急や児童思春期治療などに特色を有し、地域連携にも力を入れています。地域医療構想、働き方改革、地域包括ケアなど、医療をとりまく環境は常に変化し改革が要求されています。県立病院は、経営面の改善を行いながら、県民の命と健康を守る最後の砦として、自治体病院としての使命を精一杯果たしていきたいと考えられています。皆様のご支援をお願いいたします。



## 隠岐でのお産にたずさわって

隠岐広域連立隠岐病院  
3階西病棟看護科師長（助産師）

高村 浩美



助産科集合写真（筆者は後列左から3番目）

## 院内助産科「あかり」について

隠岐広域連立隠岐病院には、  
院内助産科「あかり」があります。

平成18年4月から10月の間、産

婦人科常勤医師が不在となり、隠岐の島でお産ができなくなりまし  
た。そこで翌年4月、島民の声も  
あり、「あかり」を立ち上げました。  
隠岐の島のお産の「あかり」をた  
やさないように、隠岐の島で生ま  
れてくる命の「あかり」をつなぎ  
続けるために…という想いが「あ  
かり」には込められています。

その後、産婦人科常勤医師2名  
体制となったのですが、現在も、  
院内助産を継続しています。

## 「院内助産って」なに？

当院では、産婦人科医師立ち会  
いによる分娩と、「あかり」での  
分娩が可能です。「あかり」は、  
前回の分娩が正常分娩であり、今  
回の妊娠も経過が順調の経産婦の  
方が対象。助産師が分娩介助、お  
よび産褥婦・新生児の管理（母児  
同室）をします。もちろん、医師、  
看護師と連携をしています。自然  
な分娩を目指していますが、緊急  
の処置を行う必要が生じた場合に  
は医師の指示に従い、医療行為を  
行うことがあります。家族みんな  
に囲まれた温かい雰囲気の中で、  
新しい家族の誕生を迎えられ、過  
ごせるようにという思いを大切に  
しています。

## 助産師外来もあります

助産師が、妊娠中の方や育児中

の方と、おおよそ30分の時間をか  
けてじっくりとお話を聞く外来で  
す。妊娠16週、20週、26週、32週、  
37週、39週の方に来ていただきま  
す。健診内容は、問診、超音波検査、  
内診、保健指導となっています。

こんなことにも取り組んでい  
ます

「助産師出向支援事業」に参加  
しています。この事業は、助産師  
が、周産期医療を担う他の医療機  
関に出向し、助産実践能力の向上  
や助産師の地域偏在の是正を図ろ  
うとする、島根県の事業です。

当院では平成28年度より、新人  
助産師を迎えたことを期にこの事  
業に参加し、平成30年度は、1名  
の助産師を受け入れました。

分娩介助1例・新生児係（分娩  
後の新生児のお世話）3例・帝王  
切開児受け・そのほか産褥ケア・  
助産師外来での保健指導や腹部超  
音波検査などを経験していただく  
ほか、周産期搬送症例や隠岐島前  
病院での産婦人科外来診療の見学  
もしてもらいました。

当院での経験を、今後の仕事に  
役立ててもらえることを期待して  
います。また、当院にとっても、  
日勤助産師の増員や時間外待機ス  
タッフとして実働していただき、  
とても助かりました。

## 最後に

全国的に言われている助産師の  
地域偏在は、当院のような離島周  
産期を担う病院にとって大きな  
問題です。隠岐の島町は、人口  
14,000人余り。年間出生数  
約100人と、年々減少傾向にあ  
ります。隠岐で出産できなくなる  
ことは、隠岐の衰退につながりま  
す。どのようなかたちで分娩体制  
を維持していくか、隠岐にとって  
大きな課題であり、課題解決にむ  
けて私たち助産師の役割は非常に  
大きいものであると考えていま  
す。

今後もいろいろな取組みをお  
し、日々まい進していきたいと思  
います。



## 地域医療住民活動の現場から

NPO法人まちづくり工房うんなん 理事長  
 (がんばれ雲南病院市民の会、雲南市立病院ボランティアの会 事務局長)

矢壁 敏宏

雲南市大東町では、地域住民が地域医療を支援することを目的として、「がんばれ雲南病院市民の会」「雲南市立病院ボランティアの会」が活動しています。

市民の会はどのようにして生まれたのか

「雲南病院経営危機」2007(平成19)年、突然の新聞報道に何も知らない私たちは、驚愕しました。「医師数はピーク時34人から2007年に半数の17人へ。医療収益の減少等により医療崩壊」という状況を知り、不安や焦りが募るなか、「何かしなければ」という市民の声から、有志により翌年3月、「病院を元気にする集い・がんばれ雲南病院市民の会」が結成されました。

すべてが手探りのなか、最初の活動として病院ボランティアを募集したところ、想定を上回る9人もの応募があり、手応えを感じるのと同時に、住民の皆さんの意識の

高さを改めてうかがい知ることができました。

### 病院ボランティアの会の活動

9人のボランティアは、その後23人の「雲南市立病院ボランティアの会」となりました。現在50人の活動方針は「できる時に、できる事を、できる人が真剣に」。会員の年会費2,000円が運営の財源で、病院玄関での車いす介助(車いす取扱い研修会なども実施)、病院内と周辺の清掃などの環境整備、病院祭などの院内イベントや模擬患者役での避難訓練参加、などが活動メニューです。

### 「がんばれ雲南病院市民の会」の活動

「病院を元気にする集い・がんばれ雲南病院市民の会」は、右に述べた「雲南市立病院ボランティアの会」と、「がんばれ雲南病院市民の会」に発展し、活動を続けています。



玄関での車いす介助



院内の車いす整備

高齢化社会が到来し、在宅医療、介護、終末医療、看取は身近で、これらは避けては通れない問題になっていきます。

市民の会では、これらの問題は「楽しい人生を過ごすための知恵」とポジティブに捉えることを提案。「自覚し、考え、話し合う研修会」を開き、各テーマについて住民の目線で話し合い、そして納得できる形で受け入れる。話し合いの中で理解を深め、自覚と覚悟を持つに至る、という啓発活動を行っています。

また、病院受診の際のルールをまとめた「受診のための便利手帳」(雲南病院・雲南医師会監修・A5)を作成し、市内全戸へ配布しました。受診の際の不安や戸惑を払拭してくれています。

住民の気持ちを伝える活動もあります。外来と病棟にメッセージボックスを置き、「看護師さんお世話になりました」「先生ありがとうございます」など

「ポジティブなメッセージを受付けています。集まったメッセージを病院スタッフに直接届けていますが、病院スタッフからは、モチベーションアップにつながっていると喜ばれています。

新しく着任した医師、

看護師の歓迎会も実施しています。住民の尊敬と感謝の気持ちを伝える場になっています。

### 今後の活動について。連携と支え

2025年問題、地域包括ケアシステムや在宅医療・看護などのように、個人がそれぞれ自分自身で解決しなければならぬ課題が、今後ますます増加すると考えられます。しかし、自分だけでは解決しきれない場合、医療機関、行政、住民が連携しながら個人を支えなければならぬと思います。住民がその役割を担えるようになるには、一人一人の住民が、地域において何ができるのか、住民でなければできないことは何なのかについて考え、行動する必要があります。市民の会やボランティア活動は、その一つの取り組みであると考えています。



「看取り」について住民研修

医療機関、行政、住民が協働して地域医療を推進できるよう、今後支援団体活動に邁進していきたいと思えます。

# 専門医制度総合診療専門プログラムの紹介

総合診療専門医に興味のある方必見!

島根県では、専門医制度総合診療専門プログラムの充実を図っています。大学、医療機関、行政等がネットワークを構築し、総合診療専門医の育成に取り組んでいます。プログラムの内容をQ & Aでまとめてみましたので、少しの間おつきあいください。

**Q 1** 島根県では「総合診療専門医育成ネットワーク」を設立されているとお聞きしたのですが？

**A 1** はい！島根県では2011年から「総合診療専門医育成ネットワーク」を設立して、大学や医療機関および行政等が一体となって総合診療専門医の育成に取り組んでいます！一方で、2018年から新たな専門医制度が構築されることになり、基本領域の一つとして総合診療専門医が位置付けられることになりましたので、県内の各プログラムをリニューアルして、専門医の育成の強化を図っているところです。

**Q 2** どのようなプログラムがあるのですか？

**A 2** 現在、専門医機構認定の総合診療専門研修プログラムは9つあり、それぞれの病院のオリジナリティを出した特徴あるプログラムとなっています。詳しいプログラムについては、島根大学医学部地域医療支援学講座のHPをご覧ください。  
<https://www.communityshimane.jp/>

**Q 3** どれくらいの専攻医が研鑽を積んでいらっしゃるのですか？

**A 3** 令和元年の4月から、新たな専攻医が3名加わりましたので、旧制度の方も含めて、なんと現在19名の専攻医が総合診療専門医の取得に向けて研鑽を積んでおられます！

**Q 4** 「総合診療専門医育成ネットワーク」ではどのような取り組みを行っているのでしょうか？

**A 4** 島根県内で総合診療専門医の育成に携わっている指導医、プログラム責任者が相互連携を図るために、年数回、ネットワーク世話人会議を開催しています。また、以下の取り組みを積極的に開催しています。

- ・専攻医対象：専攻医の集い（年2回）、JAMEP（日本医療教育プログラム推進機構）参加支援
- ・初期研修医対象：総合診療専門研修プログラム説明会（年2回）、JAMEP参加支援
- ・医学生対象：総合診療ワークショップ（年2回）、日本プライマリ・ケア学会参加支援
- ・指導医対象：ブラッシュアップセミナー（年2回）
- ・WEB支援：上記取り組みをWEBにて配信（参加希望病院）

**Q 5** 「総合診療専門医育成ネットワーク」を設立することによって、どのようなメリットがありますか？

**A 5** 最大のメリットは「相互連携」です。島根県内にプログラムが9つありますが、相互連携により専攻医は、このネットワークの中で多様な研修を行うことが可能となります。

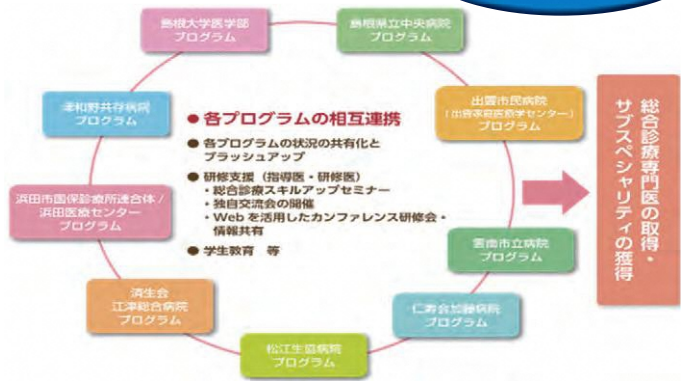
**Q 6** 最後にお聞きします。「総合診療専門医」の魅力は何でしょうか？

**A 6** それは、“多種多様な問題に対応できること”です。総合診療の研修では、二次・三次医療機関だけでなく一次医療機関で研修することも含まれており、その過程で多岐にわたる問題に向き合います。それらの経験を通じて、幅広い視点から問題を分析する力、慢性疾患管理、予防と健康増進、コミュニケーション、EBM、地域ケア、組織運営・管理、教育、研究など多様な領域に対処する力が養われます。ただ多種多様な学びは面白くはありますが、時に苦手の課題に取り組むことも求められます。苦手なことに取り組む経験は非常に重要です。研修を終了した医師の中には、専門研修は総合診療医としての自覚や基礎を築いただけでなく、“人としての成長にも繋がった”という感想を残す人もいます。

専門研修を通して養われる力の中には、幅広い知識や技術だけでなく、すぐに答えのない困難な問題に対して逃げ出さずに取り組む態度も含まれます。それらの経験を通じて得られた力は、研修終了後に個々人の成長を後押しし、様々な場所で高いパフォーマンスを発揮することに役立つでしょう。

**Q 7** なるほど、少しずつ分かってきましたが、興味を持たれた方はどこに連絡すればよいのでしょうか？

**A 7** 下記に連絡をお願いします。総合診療専門医に興味のある方、連絡をお待ちしています！！  
〒693-8501 出雲市塩冶町 89-1 島根大学医学部 地域医療支援学講座  
電話：0853-20-2558 e-mail：career@med.shimane-u.ac.jp



## 編集後記

『島根の地域医療』第69号をご覧いただきありがとうございます。

島根県では、しまねでの勤務を検討されている医師とご家族を対象にした「地域医療視察ツアー」を随時受け付けています。

詳細は県HPまたは、0852-22-6683 までお問い合わせください。